

講義の概要とねらい ミクロ経済学を基礎として、環境問題の発生と解決について理論的に明らかにするとともに、環境問題の解決に向けた対策や政策の実践を学ぶことで、理論と実践の関係性やギャップについて理解し、政策においてどのような工夫がなされているかを分析できるようにする。特に、消費行動ならびに生産行動の各々の視点から環境問題をとらえるとともに、それらを統合する一般均衡の考え方などについて解説を行う。また、具体的に環境問題の解決をデザインするためのシナリオ分析の手法を学ぶことで、問題設定からその解決に向けた政策の立案、実施から評価に至る一連の手法を説明できるようになる。

到達目標 ミクロ経済学の理論に基づいて、環境問題の発生や解決の仕組みが説明できるようになる。また、実際に生じている環境問題を取り上げることで、理論と現実の関係性、ギャップについて説明できるようになる。また、特定の環境問題を取り上げ、その解決に向けた対策を提案するとともに、その実施に向けた課題を認識し、どのようにすれば、有効な対策になるかを検討する。

キーワード 消費行動、生産行動、一般均衡、環境負荷、政策、シナリオ

学生が身につける力 コミュニケーション力・専門力・課題設定力・実践力又は解決力

授業の進め方 各回のトピックを、資料をもとに説明する。また、環境問題の設定や解決に向けた評価については、学生によるプレゼンを通じて議論を深める。

講義計画

- 10/3 第1回 環境政策とその課題
環境政策の現状と課題について議論できるようになる。
- 10/10 第2回 限界費用と環境政策
限界費用の考え方をもとに、環境政策の違いについて理解できるようになる。
- 10/17 第3回 生産行動と環境問題
生産部門における環境負荷発生とその対策を分析できるようになる。
- 10/24 第4回 家計の特徴と家庭から発生する環境負荷
家計の特徴と家計から発生する環境負荷の関係を説明できるようになる。
- 10/31 第5回 イノベーションと環境改善
環境問題の改善と経済発展、技術の関係を議論できるようになる
- 11/7 第6回 休講
- 11/14 第7回 ミクロな分析とマクロな課題1：将来シナリオと不確実性
課題解決に向けた将来シナリオの開発について手法と効果について説明できるようになる。
- 12/5 第8回 ミクロな分析とマクロな課題2：将来シナリオとモデル
将来シナリオを定量化するために活用されているモデルについて理解できるようになる。
- 12/12 第9回 ミクロな分析とマクロな課題3：ビジョンとロードマップ
将来のシナリオをいかに実現するかについて、マクロ、ミクロの両面から分析できるようになる。
- 12/19 第10回 環境問題の解決に向けたプレゼン1
将来の環境問題の発生とその解決について定性的なシナリオについて議論を行う。
- 12/26 第11回 環境問題の解決に向けたプレゼン2
将来の環境問題の発生とその解決について前回の議論をもとに発表を行う。
- 1/9 第12回 ミクロな分析とマクロな課題4：成長の限界
成長の限界の概念を理解し、その課題について議論できるようになる。
- 1/16 第13回 ミクロな分析とマクロな課題5：持続可能な開発目標
SDGsの概念を理解し、その実現に向けた取り組みについて議論できるようになる。
- 1/23 第14回 ミクロな分析とマクロな課題6：異時点における最適な環境対策

動学的最適化モデルの理論について理解する。

1/30 第15回 環境問題の解決に向けたプレゼン3

将来の環境問題の発生とその解決について定量的な分析結果を含めて議論を行う。

教科書 内容が多岐にわたるため、各回において講義資料等を提供する。

成績評価の基準及び方法 各回で出される課題のレポート（30%）やプレゼン（30%）、最終レポート（40%）によって評価する。

関連する科目 環境経済学（IEE.B333.E）

履修の条件（知識・技能・履修済科目等） 履修条件はないが、ミクロ経済学第一（IEE.B201.E）及びミクロ経済学第二（IEE.B202.E）を履修していることが望ましい。

連絡先（メール） 増井利彦 特定教授（masui@nies.go.jp）

オフィスアワー 授業開講日の授業前後の時間帯は教員が研究室に在室。普段はつくばの国立環境研究所に在籍するため連絡はメールで行うこと。